

潰瘍性大腸炎かいようせいだいちょうえんについて

排便時に血が混じった便が出たら、みなさんびつくりしますよね。

おもに血便を伴う下痢には「感染性大腸炎」繰り返す下痢による「切れ痔」「クローン病」「潰瘍性大腸炎」とあります。が、この中でも近年、潰瘍性大腸炎の患者様は年々増加しています。

また「潰瘍性大腸炎」は原因不明の完治しない難病とされ治療に要する期間が長く、国が指定する「指定難病」の1つになります。



■潰瘍性大腸炎 (UC)とは

大腸の粘膜に炎症が生じ、粘膜が慢性的にただれた状態となり、粘液便や血便症状がみられ、身体症状では発熱、倦怠感、下腹部痛、貧血、体重減少などあり、重症度にもよりますが日常生活に支障をきたすほどの便秘感が出る患者様もいます。

潰瘍性大腸炎は大腸の形状に合わせて「直腸炎型」「左側大腸炎型」「全大腸炎型」とあり、発症



直腸炎型



左側大腸炎型

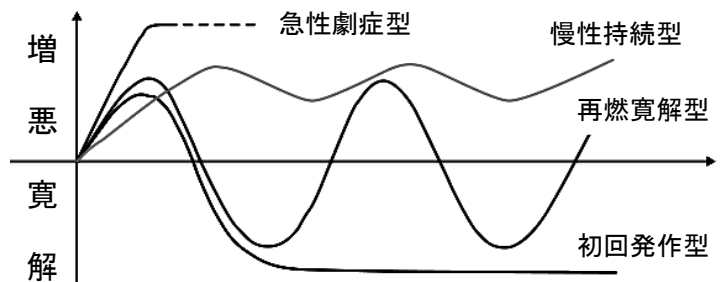


全大腸炎型

すると炎症症状が強くなる「活動期」と炎症症状が落ち着いている「寛解期」を繰り返し長期にわたって大腸の炎症症状が続きます。この寛解・増悪をくり返す経過の中で癌化するものもあるため定期的な大腸の内視鏡検査が必要です。

■潰瘍性大腸炎の状態

炎症の状態によって「軽症」「中等度」「重度」「劇症」と4段階あり劇症の場合は手術も検討されます。冒頭でもお話しし



ましたが潰瘍性大腸炎は原因不明で完治しない病気です。でも炎症を緩和させる治療薬はあります。治療薬には(5-ASA製剤、ステロ

イド剤)があり重症度にあわせた治療薬で症状の治療を行います。ただ、この病気は慢性の大腸炎の為、長期にわたって薬の服用が必要となります。

■潰瘍性大腸炎の診断

一般的に血液検査、便細菌・寄生虫学的検査、注腸X線検査、大腸内視鏡検査、生検組織学的検査が行われます。

確定診断には医師の診察、画像診断(注腸X線検査、内視鏡検査)または生検組織学的検査が必要となります。

最後に「潰瘍性大腸炎」は長期にわたって治療が必要な難病です。そのため高額な医療費が必要となります。この疾患は国が定



めた「指定難病」です。申請を行えば、医療費助成を受ける事ができます。

ただし助成の対象は「中等症」以上となりますので医師と相談してください。

潰瘍性大腸炎は難病で完治する治療法がない病気ですが長期にわたって服薬治療を行う事で症状を緩和することが出来ます。

そのため根気よく治療の維持ができるようにしましょう。



診療予約はこちら

電話予約 : 0799-62-5566 (診療時間内)

ネット予約 : <https://ssc6.doctorqube.com/soyama-clinic/> (24時間対応)

* 携帯電話からは右のQRコードからでも予約できます *

